

令和2年度第2回留萌圏域障がい者が暮らしやすい
地域づくり委員会

話題提供
～合理的配慮と高校定時制～

留萌市子ども発達支援センター長
松下 高 広

さて、今日のお話は・・・

- (1) 留萌市子ども発達支援センターの概要
- (2) 学校教育の状況
- (3) 合理的配慮の背景
- (4) 事例（知的障害児の高校受検）
- (5) まとめ

子ども発達支援センターの概要

【開設している事業】

- ・発達に遅れがある子ども（疑いを含む）とその家族に対し個別の療育支援計画に基づいて療育や相談支援等を行う。

事業	対象	内容
児童発達支援	0～6歳	母子で通所。遊びを中心とした療育を行い、個々の発達を促す。
放課後等 デイサービス	小中高生	集団指導を中心とした療育を行う。 放課後に実施。
保育所等訪問支援	幼・保・小中高 特別支援学校	保護者の要請で訪問。対象児や施設 スタッフに必要な支援を行う。
居宅訪問型 児童発達支援	重度障害児 医療的ケア児	医ケア児など重度障害児を対象とし 専門職員が居宅を訪問する。
障害児相談支援	保護者 家族、等	各種相談の他、支援利用計画の作成 など適切なサービス利用を支援。

子ども発達支援センターの概要



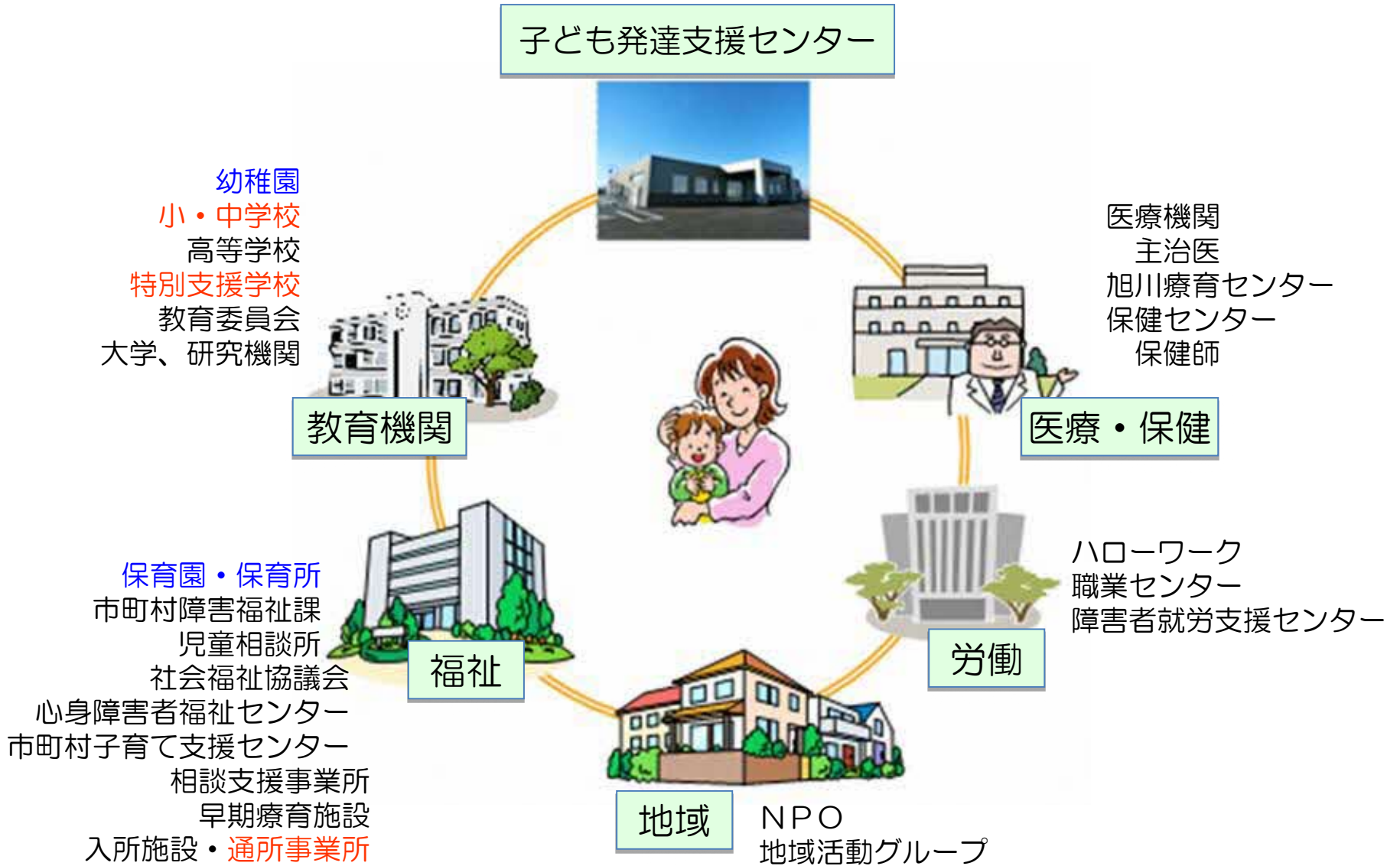
H30.11 沖見町に新築、移転
R02.02 北海道指定事業所に移行
名称を変更

- ※幼児の相談、入所が年々増加。
- ※保育所等訪問の実績↑。
- ※放デイは民間事業所との併用が大多数。

	29年度	30年度	R1年度	R2年度	R2年度	留萌市	増毛町	小平町
幼 児	23	27	37	30	幼児	25	3	2
小学生	43	44	53	45	小	36	2	7
中学生	15	16	14	20	中	15	3	2
高校生				2	高	1	1	
居宅訪問				3	居宅	2	1	
合 計	81	87	104	100	合 計	79	10	11

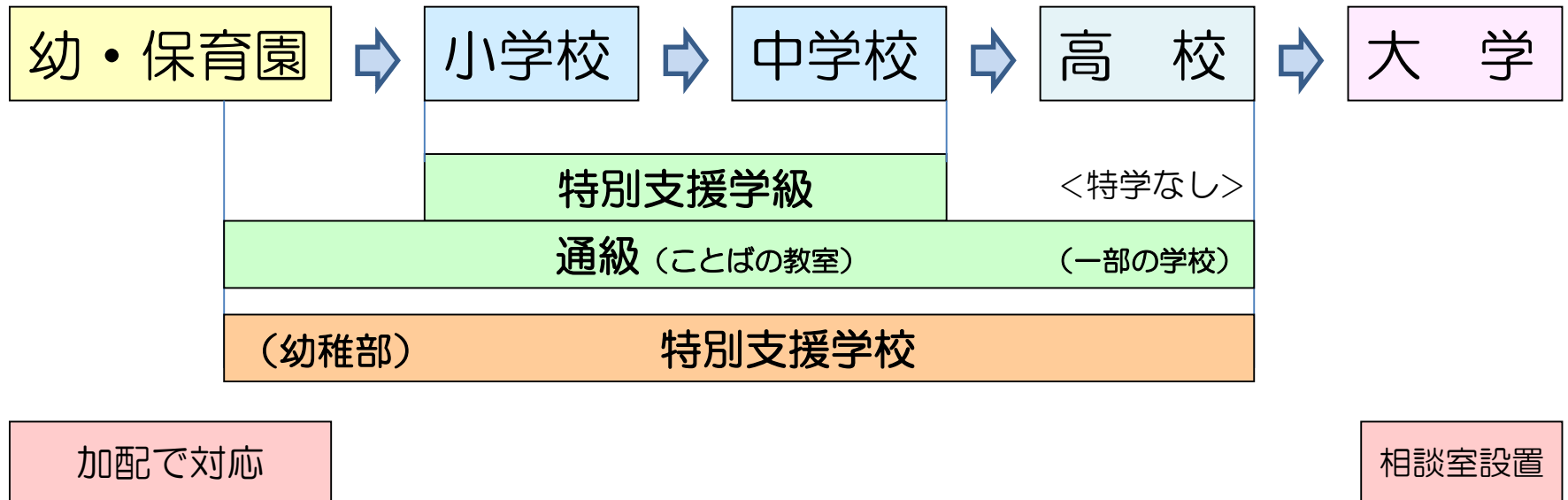
R2年4月当初

関係機関との連携



学校教育の現状

【幼・保育園から大学まで】 学校選択の問題



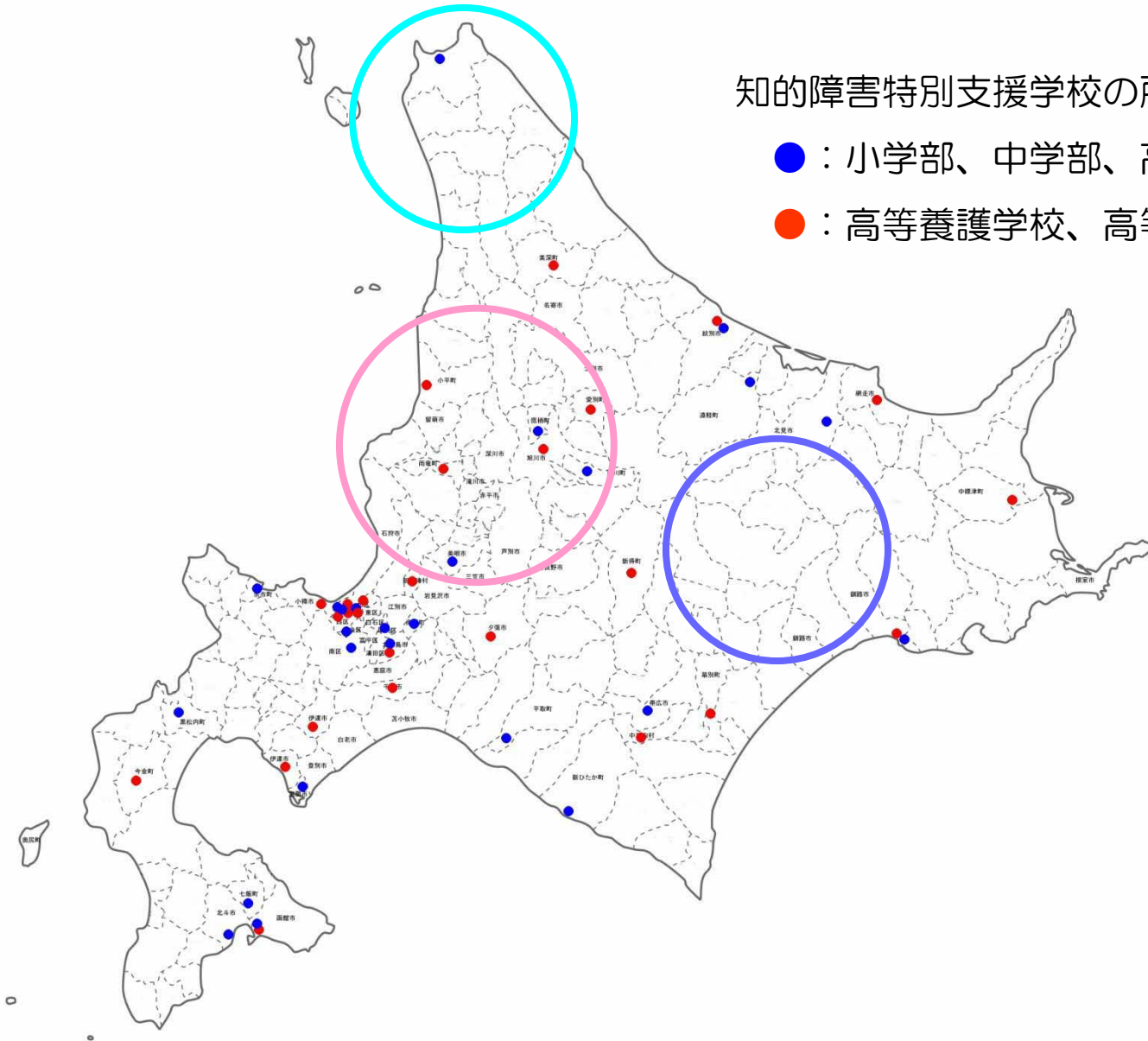
- ※ 中学校特学を卒業した生徒の進路先は？
- ※ 進学高の状況、地方高校の状況は？
- ※ 中学校、高校で触法行為を犯す生徒達の実態は？
- ※ 高校や大学での対応はどこまで進んでいるか？

学校教育の現状

知的障害特別支援学校の所在地

●：小学部、中学部、高等部

●：高等養護学校、高等支援学校



学校教育の現状

【高等学校 ～ 学年進行に伴う在籍者数】

北海道教育委員会（H30年）

入学年度	学年進行				
	26年	27年	28年	29年	30年
26年度（全）	43,746	42,686	41,877		
（定）	1,470	1,270	1,127	670	
27年度（全）		42,074	41,101	40,318	
（定）		1,339	1,175	1,060	645
28年度（全）			41,526	40,598	39,701
（定）			1,218	1,077	972